

# 塚本伸一先生のご退職にあたって

日高 聡太

2022年3月末をもって塚本伸一先生がご退職されることとなった。ご定年よりも1年早く、他大学に異動される。本誌では慣例として、定年によりご退職される先生方の記事を掲載してきた。しかし、小口孝司編集委員長を始め学科教員の総意のもと、塚本先生の文学部心理学科時代からの多大なご貢献に敬意を表するため、この記事に掲載する運びとなった。

塚本先生は、1981年に立教大学文学部心理学科を卒業された後、1983年に同大学院文学研究科心理学専攻博士課程前期課程を、1986年には博士課程後期課程を終えられ、1998年に博士（心理学）の学位を取得された。1986年より立教大学文学部の研究嘱託職、ならびに助手職を務められた。その後、1994年より上越教育大学学校教育学部にて助教授として着任された。そして、1999年に助教授として立教大学文学部心理学科に戻られ、その後2001年に教授に昇格された。2006年からは心理学科が文学部から現代心理学科に移行したことに伴い、所属が変更となられた。塚本先生が立教大学の一員として過ごされた期間は、じつに40年近くに及ぶ。先生が心理学に興味を持たれたきっかけやキャリアの歩みについては、是非校友会のホームページに掲載されているインタビュー記事<sup>1)</sup>をご覧ください。

塚本先生のご専門は発達心理学および教育心理学であられる。最近のご業績として、『教師の指導態度、学級集団構造、親の養育態度が児童の共感性に及ぼす影響』（2018, 生徒指導学研究）、『小中学校教師のバーンアウトと教師ストレス、離職願望の関連』（2021, 産業ストレス研究）、『ソーシャル・サポートと母親の愛着スタイルが育児ストレスに与える影響』（2021, 応用心理学研究）を発表されている。また、書籍『発達と学習の心

理学』（2019, ナカニシヤ出版）の中では、「児童期」に関する章を執筆されている。

塚本先生は、学科長や学部長など、学科・学部運営の中核を担ってこられただけでなく、大学運営にも多大なご貢献をされている。2012年から2014年には総長室長の職（大学運営の一切を差配する立場であり、筆舌に尽くしがたいほどの激務である）を務められ、2014年から2016年には副総長の職を担われた。このようなお役目を果たされる中で、発達・教育心理学者としての専門知識やご経験を十二分に活かされていらっしゃるように拝見した。たとえば、大学での4年間の学びを導入・形成・完成期に分け、それぞれの期間で必要な学びの目標を明確にしたうえで、学びを総合的に積み上げる視点を根幹とする「立教ラーニングスタイル」の導入に携われた。また、立教小・中・高の教育・運営、大学の学びとの接続についても、専門家として様々な提案や助言をされたと同っている。

塚本先生が立教大学心理学科への愛情に満ちあふれた方であることは、先生をご存知の全ての方に同意いただけることと思う。常に学生に学びを提供すること、学生を導き、守ることを第一に考えておられていた。大学運営に携わられた背景にも、やはり立教大学心理学科の発展に寄与するという動機があったと同っている。2018年9月15 - 17日には、大会委員長として日本家族心理学会を主催され、学術交流の機会を提供いただいた<sup>2)</sup>。2019年9月7日には、塚本先生に実行委員長を務めていただく形で、立教大学心理学科創立70周年記念行事として、池袋キャンパスにて押見輝男元総長・名誉教授による講演会『ま・あわい（間）の学としての心理学、学科理念』、ホテルメトロポリタンでパーティー

が開催された<sup>73</sup>。退職された先生方、卒業生の皆さま、現役生にいたるまで幅広い年代の方々に多数ご参加をいただき、盛況であった。ひとえに常に立教大学心理学科のことを考え、行動されてきた塚本先生のお力と人望によるものである。

筆者は2005年に立教大学心理学科を卒業したが、塚本先生には授業でご指導をいただくのみならず、学位記も授与いただいた。2010年に教員

として勤務をする機会をいただいた以降は、同僚として、また後輩として、暖かくご指導をいただいた。塚本先生からはまだまだ学ぶべきことが沢山ある。新天地に移られた後も、折に触れて立教大学心理学科の道標をお示しいただきたい。

学科一同、塚本先生の今後益々のご活躍をお祈り申しあげる。

\* 1：塚本先生のインタビュー記事

<https://koyu.rikkyo.ac.jp/magazine/interview/laboratory/454.html>

\* 2：日本家族心理学会での関係者集合写真。前列左から3人目が塚本先生。



\* 3：立教大学心理学科創立70周年記念行事の一幕。

